

## 令和6年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

自身のコンディションを把握し、病気と向き合う力、目標の実現に向けて取組む力、  
自身を大切に思うとともに、周囲の人を大切に思う心を育む学校

- 一人ひとりの「学ぶ意欲」を引き出し、「学ぶ楽しさ」を実感することで、治療に立ち向かう心を育てる。
- 病気療養中の児童生徒が、安心して安全に学ぶことで、自身の目標に向けて進もうとする意欲を育てる。
- さまざまな人とのつながりを通して、自分も他者も大切な存在であることに気づき、お互いを認め合う心を育てる。
- 家庭・病院・関係機関との連携のもと、病弱教育への理解推進を図り、支援学校のセンター的機能を果たす専門性の向上に努める。

## 2 中期的目標

## 1 病弱教育における切れめのない支援の推進

- 入院中の学習機会を積極的に捉え、長期欠席等による未学習部分を補い基礎学力の定着を図るとともに、「わかる」「できる」授業により自己肯定感を育む。
- ICTを積極的に活用することで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教育課程を充実させることで「学ぶ楽しさ」「学ぶ意欲」につなげる。  
※学校自己診断（教材や教え方などが工夫され、わかりやすい。）肯定的評価 R8年度 90%以上を維持（児童生徒 項目2 R3 93%、R4 95%、R5 79%）  
※学校自己診断（コンピュータ等の情報機器が、活用されている。）肯定的評価 R8年度 95%以上を維持（教職員 項目20 R3 96%、R4 98%、R5 90%）
- 病院所在地の市町村教育委員会と連携し、研修会等から情報を収集しながら、児童生徒の教育活動に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりのニーズに応じたキャリア教育・進路指導を行うことができるよう校内体制の充実を進める。  
※学校自己診断肯定的評価 R8年度 70%以上をめざす（児童生徒 項目4 R3 56%、R4 65%、R5 63%）
- 病院・関係機関との連携を密にし、地域校を含めたケース会議の実施等、機関連携をコーディネートする。  
※学校自己診断（学校は、病棟と連携して教育活動を行っている。）肯定的評価 R8年度 90%以上を維持（病院関係者 項目5 R3 85%、R4 87%、R5 91%）  
※学校自己診断（学校は、前籍校や病院と連携して指導にあたっている。）肯定的評価 R8年度 100%をめざす（保護者 項目11 R3 97%、R4 100%、R5 97%）

## 2 病気のある児童生徒への支援の充実を図るための専門性の向上と支援の継承

- センター的機能の一つとして、病院と連携した公開セミナーを毎年企画実施し、地域の学校の教育力の向上に寄与していく。  
※学校自己診断（地域支援は、十分に行われている。）肯定的評価 R8年度 80%以上をめざす（教職員 項目26 R3 75%、R4 78%、R5 77%）
- 本校の実践を報告集として研究冊子にまとめることで、支援の継承を進める。
- 本校にある筋ジストロフィー、心身症等に関する支援内容及び支援のノウハウを、地域の学校に伝える。
- 国立特別支援教育総合研究所等への研究協力、他府県の病弱支援学校との共同研究、大阪府の病弱教育の推進等、自校の専門性向上を図るとともに病弱教育全体の発展に寄与するよう努める。
- 学校経営計画の推進を柱とした学校経営の見える化・PDCA化を進める。

## 3 安全・安心な学校づくり

- 病弱支援学校における学校行事の重要性を鑑み、児童生徒の現状を理解し、主治医、保護者と丁寧に協議した上で、児童生徒にとって安全・安心で最善のものとなるよう努める。
- 病弱教育における自立活動の在り方を全部署で検討し、児童生徒の実態に合わせた活動内容を作成し実践する。  
※学校自己診断（児童生徒の実態をふまえ、学習内容・方法の工夫・改善を行っている。）肯定的評価 95%以上を維持する（教職員 項目6 R3 100%、R4 94%、R5 100%）
- 「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」が、在籍中及び復学後の支援や進路指導に活用できるよう部内で十分共有を進める。  
※学校自己診断（本人・保護者のニーズを踏まえ作成している。）肯定的評価 R8年度 95%以上を維持（教職員 項目16 R3 91%、R4 92%、R5 96%）
- 児童生徒理解及び人権の擁護、個人情報の保護、災害時の対応等、児童生徒が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、校内体制を整備するとともに、研修等を活用し、教職員の資質向上を図る。  
※学校自己診断（人権尊重に基づいた指導が行われている。）肯定的評価 R8年度 90%以上を維持する（教職員 項目15 R3 94%、R4 90%、R5 88%）  
※学校自己診断（個人情報に関する管理システムが整っている。）肯定的評価 R8年度 95%以上を維持する（教職員 項目18 R3 96%、R4 95%、R5 92%）  
※学校自己診断（事故・災害等時に迅速に対処できるよう、役割分担が明確化されている。）肯定的評価 R8年度 85%以上をめざす（教職員 項目23 R3 89%、R4 72%、R5 75%）
- 会議のスリム化と情報の円滑な共有による時間外勤務の縮減を進める。
- 本校・分教室間の連携を深め同僚性を高める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年 月実施分]	学校運営協議会からの意見
※本校は児童生徒、保護者、教職員、医療関係者を対象に実施	

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 切れ目のない支援の推進	<p>(1)入院中の学習機会を積極的に捉え、長期欠席等による未学習部分を補い基礎学力の定着を図るとともに、「わかる」「できる」授業により自己肯定感を育む。</p> <p>(2)ICTを積極的に活用することで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教育課程を充実させることで「学ぶ楽しさ」「学ぶ意欲」につなげる。</p> <p>(3)病院所在地の市町村教育委員会と連携し、研修会等から情報を収集しながら、児童生徒の教育活動に役立てる。</p>	<p>(1)ア 教科教育を中心とした授業力の向上 ・準ずる教育を行う支援学校として、学習指導要領に則った教科教育の充実を図る。そのため、部署横断的に教科会を実施し、各教科で指導案を検討したり、研究授業会を実施したりする。また、一人ひとりに応じた学習課題の設定や教材の工夫により「わかる」「できる」授業に取り組む。</p> <p>(2)ア ICTを活用した授業交流学习の推進 ・入院中の児童生徒は活動を制限されることが多いが、ICT機器を活用して主体的に学習に取り組む態度を育成し社会に対する関心意欲を高める。</p> <p>(3)ア 小・中学校に準ずる指導技術の向上 ・豊中市、枚方市教育委員会に協力をいただき、学習指導に関する研修に参加し、本校の教育活動に役立てる。</p>	<p>(1)ア ・児童生徒の学校教育自己診断における「授業はわかりやすく楽しい」に対する肯定率90%以上をめざす。[79%] ・授業アンケート項目2「授業を受けてその内容がわかるようになりましたか」に対する全体平均3.70以上をめざす。[3.54/4.00満点]</p> <p>(2)ア ・教職員の学校教育自己診断における「コンピュータ等の情報機器が、授業などで活用されている」に関する肯定的評価95%をめざす[90%]</p> <p>(3)ア ・各市の研修に年間16講座以上参加する。[16講座]</p>	
2 専門性の向上と支援の継承	<p>(1)センター的機能の一つとして、病院と連携した公開セミナーを毎年企画実施し、地域の学校の教育力の向上に寄与していく。</p> <p>(2)本校の実践を報告集として研究冊子にまとめることで、支援の継承を進める。</p> <p>(3)学校経営計画の推進を柱とした学校経営の見える化・PDCA化を進める。</p>	<p>(1)ア 病院と連携した研修の実施 ・各部署において、関係病院と連携した学校主催のセミナーを実施し、府全体の支援教育力の向上を図る。滝井セミナーでは、不登校支援をテーマに取り上げる。</p> <p>(2)ア 地域の学校に通う児童生徒への支援の推進 ・成果を実践報告集にまとめ、本校HPに掲載することで、地域の小中学校教員の授業力向上に役立てていただく。</p> <p>(3)ア 重点項目ごとの推進担当部署を明確にし、1学期に目標と具体的な推進方策の確認、2学期に進捗状況の確認、3学期に総括と次年度の目標設定を行う。</p>	<p>(1)ア ・WEB等も活用し、4部署で4つのセミナーを実施する。総参加者数600人以上をめざす。[519名]</p> <p>(2)ア ・令和6年度の実践報告集を3月末までに作成し、本校HPに掲載する。[R4より実施]</p> <p>(3)ア ・教職員「学校組織は有効に機能している」肯定的評価80%以上[75%]</p>	
3 安全・安心な学校づくり	<p>(1)病弱支援学校における学校行事の重要性を鑑み、児童生徒の現状を理解し、主治医、保護者と丁寧に協議した上で、児童生徒にとって安全・安心で最善のものとなるよう努める。</p> <p>(2)病弱教育における自立活動の在り方を全部署で検討し、児童生徒の実態に合わせた活</p>	<p>(1)ア 医教連絡会及び保護者懇談会の充実 ・各病院と学校との連絡会を充実させるとともに保護者と協議し、行事や教育活動の在り方を検討する。</p> <p>(2)ア 医療機関との連携のもと自立活動の内容の充実 ・子どもの実態把握を医療機関との連携のもと実施し、教科指導の場面や特設の自立活動の時間における指導を充実させる。</p>	<p>(1)ア ・児童生徒「行事は楽しく参加できるよう工夫されている」肯定的評価85%以上をめざす。児生[79%]</p> <p>(2)ア ・児童生徒「自分やほかの人の大切さや社会のルールについて学習する機会」</p>	

<p>動内容を作成し実践する。</p> <p>(3) 児童生徒理解及び人権の擁護、個人情報の保護、災害時の対応等、児童生徒が安心して安全に学校生活を送ることができるよう、校内体制を整備するとともに、研修等を活用し、教職員の資質向上を図る。</p> <p>(4) 会議のスリム化と情報の円滑な共有による時間外勤務の縮減を進める。</p> <p>(5) 本校・分教室間の連携を深め同僚性を高める。</p>	<p>(3) ア 人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育に関するセミナー等を年間3回計画し、教職員に積極的な受講の促進をするとともに、人権意識の向上をめざす。</li> </ul> <p>イ いじめの未然防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の時間を設定するとともに、病院とも連携しつつ、いじめの未然防止に取り組み、児童生徒が相談しやすい環境作りを行う。</li> </ul> <p>ウ 個人情報の保護及び災害時の対応の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に個人情報の取り扱いについて、全教職員で確認を行い、ダブルチェック及び記録簿への記載等について周知徹底を図る。</li> <li>・防災訓練の実施と災害備蓄品の整備を充実させる。</li> </ul> <p>(4) ア 会議のスリム化と時間外勤務の縮減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Web会議システムやグループメールを活用して各分教室の教職員への連絡を実施することで、運営委員会等の会議をスリム化し、時間外勤務時間の減少を図る。</li> </ul> <p>(5) ア 年5回以上、複数の部・分教室にまたがる企画を開催する。</p>	<p>「先生はわたしたちの心や身体のことをわかってくれている」肯定的評価90%以上をめざす。児童[86%]</p> <p>(3) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の学校教育自己診断における「人権教育」に関する項目の肯定率90%以上を維持する。[88%]</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の学校教育自己診断におけるいじめに関する項目の肯定的率85%以上をめざす。[81%]</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録簿の不定期チェックを毎学期1回行う。教職員の学校教育自己診断個人情報の肯定率95%以上をめざす。[92%]</li> <li>・年3回の避難訓練と防災用具の充実を図る。</li> <li>・教職員の学校教育自己診断施設設備に関する項目の肯定率90%以上をめざす。[88%]</li> </ul> <p>(4) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WEB連絡会は、毎月開催(8月は除く)、運営委員会については完全にweb会議システムを導入し毎月開催する。</li> <li>・週一回の定時退勤日を設定し、時間外勤務時間月45h以上の教員をなくす。[1名]</li> </ul> <p>(5) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の学校教育自己診断「積極的に協力しようとする雰囲気がある」の肯定率65%以上をめざす。[62%]</li> </ul>
--	--	--